

# 物流拠点に立体自動倉庫増設 迅速なデリバリー体制構築

## 市原金属産業

中部地区大手非鉄流通の市原金属産業（本社・名古屋市中区、社

長・市原玄樹氏）はさらに効率的な入出庫体制の実現により、迅速なデリバリー体制の構築など販売競争力を高める。物流拠点であるメタルスクエア（名古屋市南区）で増設工事を進めていた、黄銅を中心とする棒材用の立体自動倉庫導入が完了し本稼働に入った。今回の設備投資に伴い、

生じた空きスペースを活用し、多様化するニーズに答えられるよう在庫ラインアップを拡充。新規分野の開拓営業を進める。

棒の販売シェアは国内トップを誇る。1997年に顧客サービスの向上を狙い、名古屋市南区にメタルスクエアを新設。立体自動倉庫やドライプスルー方式の採用で、かねて物流の効率化に取り組んできた。設立時に導入した立体自動倉庫は、銅板条用のストックにとどまった。昨今の人手不足を背景に、各社が現場作業員の負担軽減など働き方改革への取り組みを加速。人材がより定着しやすい職場環境づくりもあり、今春より棒材用の立体自動倉庫の増設工事に着手していた。

同社は今年創業100年を迎えた老舗流通。黄銅棒をはじめとする伸銅品のほか軽圧品、ステンレス製品や非鉄金属製品の加工も手掛ける。中でも黄銅

の採用で、かねて物流の効率化に取り組んできた。設立時に導入した立体自動倉庫は、銅板条用のストックにとどまった。昨今の人手不足を背景に、各社が現場作業員の負担軽減など働き方改革への取り組みを加速。人材がより定着しやすい職場環境づくりもあり、今春より棒材用の立体自動倉庫の増設工事に着手していた。

トック能力は最低でも常時500ト以上と、導入以前の在庫の約8割を新倉庫で保管する。ピックアップ作業の全自動化で、入出庫作業が大幅に効率化され、高めていく。



本稼働した黄銅棒用立体自動倉庫

稼働開始した立体自動倉庫は720棚。ス